

## 校名：愛媛大学教育学部附属小学校

所在地：〒790-0855 愛媛県松山市持田町1丁目5番22号 電話番号：089-913-7861

記載日：平成28年5月6日 記載者：玉井 啓二

記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について

- 明治16年10月に愛媛県師範学校附属小学校として開校、昭和26年4月に愛媛大学教育学部附属小学校と改称、平成16年4月に国立大学法人愛媛大学教育学部附属小学校となり、本年度で学校創立133年を迎える。
- 校訓は「なかよく すすんで やりぬく」、学校教育目標は「自己を拓き、ともに生きる児童の育成」である。
- 「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを実施する」「教育研究を行う」「教育実習を実施する」を本校の使命とする。
- 愛媛大学附属学校園の共通教育理念「未来を拓く人材の育成」に基づいて研究主題を設定し、学部教員との連携・協力の下、今日的課題への対応を企図した実践研究を推進している。研究成果は、研究紀要の発刊、及び教育学部及び附属幼稚園と共同で開催する愛媛教育研究大会での公開授業と協議会において公表している。愛媛教育研究大会の開催数は本年度で96回になり、毎年600～1000名が県内外から参加している。
- 本学教育学部の実習プログラムに沿って、1回生から4回生の教育実習を実施している。平成27年9月には3回生75名が4～5週間の教育実習を行っているが、学部改組に伴い、平成30年度からは3回生94名が4週間の教育実習を行うことになる。また、今後、大学院生のメンターシップ実習や4回生のインターン実習を行う。
- NHK全国学校音楽コンクール全国大会に53回出場して金賞（最優秀校）を12回受賞、平成24年度ソニー子ども科学教育プログラム最優秀校受賞など、多数の受賞歴がある。

### 貴校の卒業生の活躍状況について

卒業生の中学校進学先について指導要録に記載している程度の把握をしているが、その後の追跡調査を行っておらず、活躍状況を把握していない。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

本校勤務経験者の転出後の追跡調査は行っていないが、定年退職までの勤務校（勤務先）は、本校で概ね把握できている。

本校転出後は、主に公立校の校長・教頭・主幹教諭・教諭として、及び愛媛県教育委員会や各市町教育委員会などの教育行政において活躍している。本年度、本校からは初めて1名が本学教育学部准教授に就任した。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

## 1 土曜学習の実施

文部科学省が推進している「土曜日の教育活動推進プロジェクト」の趣旨に沿って、平成26年度から土曜学習を実施している。この土曜学習では、教育学部の教員や学生などが、自身の研究分野の専門性を生かし講座を担当している。児童にとっては「豊かな学習の場」に、学部教員にとっては「研究の場」に、学生にとっては「児童とかかわる場」や「卒業論文・修士論文の実証データ収集の場」になっている。これまでに次のような講座が実施されている。

※( )内は対象学年と募集人数

- ・算数オリンピック学習会(4~6年、20人)
- ・トーンチャイムに挑戦しよう(3~6年、20人)
- ・LEDを学んで君もノーベル賞(3~6年、30人)
- ・みんなで俳句(5~6年、20人)
- ・タブレットを使った音楽づくり(4~6年、20人)
- ・郷土料理を体験しよう(4~6年、30人)
- ・モーターを作ろう(4~6年、40人)
- ・藍染めをしよう(1~6年、60人)
- ・カカオ豆からチョコレートを作ろう(3~6年、60人)
- ・アップサイクルに挑戦(4~6年、10人)
- ・ロボットを動かすプログラムを作ろう(4~6年、20人) など

また、講座の様子は、下のように新聞記事となって、広く地域に発信されることもある。



# 土曜の授業は多彩

愛媛大教育学部と同付属小が連携して月1、2回、松山市持田町1丁目の付属小で「土曜学習」を開いている。児童は幅広いジャンルの講座を通して学ぶ喜びを体験し、大学側は教材研究や指導法の検証、学生の実習の場として活用している。

土曜学習は児童の知的好奇心や芸術などへの興味関心を高めようと、2014年11月にスタート。学習内容は大学側が決め、大学教員や学生が指導に当たる。これまでに実施した講座は、俳句作り、算数オリンピックの問題を題材にした学習、タブレット端末を使った作曲、松山の郷土料理のしよけ餅作りなどバラエティーに富む。主に中学年以上から希望者を募っており、1月末までに一度も参加した児童は全校児童の約3分の1に上る。

## 愛媛大付属小と教育学部が連携 学ぶ喜び 児童体感

### 学生実習の場に活用も

私服での参加や保護者の送り迎えを呼び掛けているという。1月23日午前、4、5、6年生20人が教室に集まった。この日の講座はロボットを動かすプログラム作り。希望者が多かったため、午後にも開かれた。「先生」は、技術教育を学ぶ宇津博美さん(21)ら3年生3人と、指導する大西義浩准教授。宇津さんたちは大学の授業の一環で10月から指導案を練り、教材の準備などを進めてきた。実践が締めくくるとなる。



④大学生が見守る中、パソコンソフトでロボット操作のプログラムを作る愛媛大付属小児童⑤ロボットがプログラム通りに動くか確認する児童①1月23日、松山市持田町1丁目

参加者は2人1組となり、パソコンソフトで走行用ベルトのついたロボットを動かすためのプログラムを作っていた。中学生向けの教材だが、「課題解決のために自分で考えたことを実験できるように」と、教えるのは基本操作や注意のみ。

大西准教授によると、大学の授業で学生が指導案を作っても、子ども相手に実践する機会は教育実習以外にはほとんどないという。「小学生の正規の授業だと学習指導要領に沿わないといけないが、土曜学習だとある程度自由ででき、教材研究も深くできる」。午前の講座を終えた宇津さんは「教育実習は中学校だったので、小学生相手の『授業』は初めて。説明の言葉選びにも気を使ったが、充実した経験だった」と話した。

低学年が参加できる講座が少ない、希望者が多い場合に受け皿に限られるといった課題はあるものの、保護者にも好評で来年度も継続する予定。玉井副校長は「土曜学習で興味や関心を深めたことが、授業やその他の学習にも反映されれば」と期待する。

(石川美咲)



## 2 豪州のカレッジとの協定締結

本校は、オーストラリアのSt Andrews Lutheran Collegeの小学部と協定を締結し、児童や教員が国際交流を行うなど、外国語活動や国際理解教育の充実と深化を図っている。特に高学年の外国語活動や中学年の総合的な学習の時間では、下の写真のようにSkypeを活用してオーストラリアの小学生と英語によるコミュニケーションを楽しみ、異文化に気付くことを目的とした学習を設定している。本年度は、昨年度にSt Andrews Lutheran Collegeをはじめオーストラリアで研修した附属高校生とも交流して、オーストラリアの風土や文化などに関する研修成果を附属高校生から学ぶ活動を予定している。



## 3 附属祭の開催

平成26年度から毎年10月に、附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校・高等学校のPTAと後援会の有志で組織されている五校園マイスター倶楽部が主催となり、本校を主会場として附属祭を開催している。本校から多数の児童や保護者が企画・運営にあたり、参加したりしている。体育館では小学校から大学までの児童・生徒・学生が合唱や楽器の演奏、ダンスや能の発表などを行い、各教室では小学生が中心になって輪投げ・ミニ四駆のゲームやお化け屋敷のコーナーを運営したり、児童・生徒や保護者が作成した美術・手芸などの作品を展示したりしている。また、中庭では五校園マイスター倶楽部のメンバーがおでんやカレー、ラーメン、フライドポテトなどの屋台を開設したり、附属特別支援学校の生徒が製作した物品などを販売している。

この附属祭では、異年齢の幼児・児童・生徒・学生の交流が実現するとともに、各校園のPTA組織を越えた保護者の交流が実現している。校種間連携のモデルになり得ると考えている。



## 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

### 1 公立校に貢献する学校としての存在

- 本校では、子どもを取り巻く課題に対応すべく実践的研究を推進している。本年度からは、国際比較調査の結果などから明らかになっている〈子どもの自尊感情の低下〉について対策を講じるために、研究主題を「自己効力感が高まる学びを探る」と設定し、教科横断的な視点から単元を開発するとともに、教育課程の再編成を目指している。このような研究は、次期学習指導要領のキーワードになっているカリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングの在り方を具体的に提案することになり、公立校の研究推進に貢献することができると考えている。
- 教育学部と連携して実施している「土曜学習」は、文部科学省が展開している「土曜日の教育活動推進プロジェクト」の一つのモデルになり得ると考えており、公立校においても今後の実施が期待できる。
- 本学附属校園のPTAと後援会が主催する「附属祭」は、各校園の幼児・児童・生徒やPTAの交流が実現しており、校種間連携のモデルになり得ると考えている。
- 本校の教員は全員、愛媛県の小・中学校教員の大半が所属する研修団体である愛媛県教育研究協議会の各教科等委員会に所属し、研究推進や委員会運営の中心的な役割を担っている。毎月1～3回の各委員会の会合に参加し、本校での研究成果を基にして各教科等の研究を牽引するなど、公立校教員への貢献を果たしている。
- 本校の教員の多くが、本学教育学部の講義や愛媛県総合教育センターの講座などで講話を担当している。学生や公立校の教員に対し、本校での研究成果を踏まえて、各教科等の学習における指導・評価の在り方などについて指導したり提言したりしている。

### 2 教員養成に貢献する学校としての存在

- 本学教育学部の教育実習プログラムに基づき、1回生の観察実習、2回生のプレ教育実習、3回生の教育実習、大学院生のフィールド演習を実施している。このように本学教育学部と連携して教員養成の一翼を担うことにより、毎年、県内外に多数の教員を輩出することに貢献している。

### 3 地域に貢献する学校としての存在

- 本校はNHK全国学校音楽コンクール全国大会の最多出場校であり、本校コーラス部には毎年、愛媛県や松山市が主催するイベントなど多方面から出演依頼がある。芸術性に富んだ児童の歌声が地域の方々に感動を与えている。

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

### 1 「国の拠点校」としての存在意義

- 本校では、学習指導要領の趣旨の実現を企図し、学部教員との連携・協力の下、質の高い授業・単元・教育課程の構想・実施・評価の在り方について研究している。そして、その成果を研究紀要の発刊や研究大会の開催によって公表している。このような研究推進の継続性と研究実績の蓄積が各附属校園にはあり、それらをもって学習指導要領の検証、及び改訂の方向性の策定に資することが附属校園の担うべき役割である。

### 2 「地域のモデル校」としての存在意義

- 附属校園が行っている研究や教育実習の内容や方法、あるいは「チーム学校」としての学校組織・PTA組織の在り方などをモデルとして、地域の学校園に発信することが附属校園の担うべき役割である。